平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	世界建築史(History of World Architecture)			**授業コード**	C184701
担当教員名	島岡　成治			**科目ナンバリングコード**	L30408
配当学年	3	**開講期**	前期		
必修・選択区分	建築コース(選択必修) インテリアデザインコース(選択必修) 環境・地域創生コース(選択)	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	特にありません。				
受講心得	建築は、自分の目で見て、その時感じたことを言葉にして考えることが大切です。講義の時に見るスクリーン上の写真だけでなく、西洋建築史以外の建築も含め、普段から写真集など、あるいはできれば本物を見ることを勧めます。				
教科書	西洋建築史図集(彰国社)　日本建築学会編 西洋建築史概説(彰国社) 森田慶一著				
参考文献及び指定図書	西洋建築入門(東海大学出版会)　　森田慶一著 ゴシックということ(学芸出版社)　前川道郎著 その他、講義中に適宜指示します。				
関連科目	日本建築史、近代建築史、設計製図1～4				

授業の目的	日本語の「建築」という言葉は、古代ギリシア語に語源をもつ西洋の言葉の訳語といわれています。したがって、西洋における建築の概念は、今日私たちがよい建築とはどのようなものかを考えるとき、とても重要であるといえます。また、西洋の歴史上に見られる数々の建築作品には、すぐれて人間の精神性を象徴するものとして、今日においても学ぶべき多くのことを見いだせます。西洋建築の基本的知識を学ぶことによって、学生自身が建築と建築をつくることについて学び、考えるための具体的手がかりを見いだすことが目的です。
授業の概要	18世紀頃までの西洋の建築を歴史に沿って紹介します。西洋における「建築」の語源から、古代ギリシア建築からはじめ、古代ローマ建築、初期キリスト教建築、ビザンチン建築、ロマネスク建築、ゴシック建築、ルネサンス建築、マニエリスム建築、バロック建築と展開する建築の流れを学ぶことによって、それぞれの時代における建築空間の人間にとっての意味を考えます。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： 西洋における建築の概念と古典主義 まず、西洋建築を学ぶことの意義を説明します。その後、西洋建築各時代の代表的作品のいくつかを取り上げて、その空間的特質の違いを説明しながら、古典主義という言葉を手がかりに、西洋建築史全体の大きな流れを概説します。	配付資料 復習課題(レポート)
第 2 週 ： 古代ギリシア建築 古代ギリシア文化の歴史的背景と造形的特徴についてふれた後、古代ギリシア神殿の基本的形式とオーダーについて説明し、具体的な神殿の造形的特徴について歴史に沿って説明します。特に、アルカイック時代から古典時代へのギリシア彫刻の洗練と比較しながら解説します。また、可能な範囲で劇場など神殿以外の他の建造物についても紹介します。	配付資料 復習課題(レポート)
第 3 週 ： 古代ギリシア建築と古代ローマ建築 改めて古代ギリシア建築の造形原理について説明した後、その影響を受けた古代ローマ建築のもつ古代ギリシア的造形と古代ローマ独自の造形的特徴を解説します。そして、神殿を中心に、古代ギリシアと古代ローマの建築の違い、特に構造とオーダーにおける両者の違いを説明します。	配付資料 復習課題(レポート)
第 4 週 ： 古代ローマ建築 古代ローマ建築の歴史的変遷を踏まえた上で、フォルム、バシリカ、凱旋門、劇場、住居、宮殿など、神殿以外に華々しく建造された古代ローマ建築を取り上げ、それらの構造、空間的構成、造形特徴などについて解説します。また、古代ローマの都市についても説明します。	配付資料 復習課題(レポート)
第 5 週 ： 古代建築についてのまとめ あらかじめ、古代ギリシア建築と古代ローマ建築についてのレポートを提出してもらいます。その提出されたレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。	配付資料
第 6 週 ： 初期中世の建築	

古代ローマにおける初期キリスト教建築とビザンチン建築を取り上げます。初期キリスト教建築においては、有心式とバシリカ式という二つの平面形式の特徴などについて、ビザンチン建築においては、光の建築としてのハギア・ソフィアの成立とその後のイスラム建築への影響などについて説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第 7 週 ： 中世ロマネスク建築 プレ・ロマネスクからロマネスクへの歴史的背景、修道院文化の重要性、ロマネスク教会堂の全体的特徴などを説明した後、ロマネスク建築が地域によって異なることを、主にドイツとフランスのロマネスク建築をとりあげて解説します。また、ラテン的特質を失わないイタリア・ロマネスク建築などの空間的特質を説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第 8 週 ： 中世ロマネスク建築とゴシック建築 フランスのロマネスク建築、特に、プロバンス地方に見られる「聖なる空虚」としてのシトー派修道院のロマネスク建築について空間的特質を説明します。また、パリ近郊にあるサン・ドニ修道院付属教会堂におけるゴシック建築の成立とその光の建築としての空間的特質を説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第 9 週 ： 中世ゴシック建築 フランス・ゴシック建築について、特に初期、盛期、後期と、構造や平面構成やステンドグラスの光の在り方などがどのように変化したか、パリ周辺のイル・ド・フランスでの展開を追います。その後、ドイツ、イギリス、イタリアなどのゴシック建築の特徴を概説します。特に、イタリア・ゴシック建築におけるラテン的特質によって、この地がルネサンスの発祥の地となることを説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第10週 ： 中世建築のまとめ あらかじめ、中世ロマネスク建築と中世ゴシック建築についてのレポートを提出してもらいます。その提出されたレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。	配付資料
第11週 ： 近世イタリア・初期ルネッサンスの建築 古典再生としてのルネサンス文化誕生の歴史的背景とルネサンス建築の造形の基本的特徴を説明した後、フィレンツェに始まる初期ルネサンス建築を、歴史の流れに沿って紹介し、それぞれについて、その造形的特徴を説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第12週 ： 近世イタリア・盛期ルネサンスとマニエリスムの建築 フィレンツェ以外の初期ルネサンス建築の広がりから、ローマにおけるブラマンテに代表される盛期ルネサンスの建築、さらにミケランジェロに始まるマニエリスム建築について、歴史の流れに沿って紹介し、それぞれについて、その造形的特徴を説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第13週 ： 近世イタリア・バロック建築 ミケランジェロに始まるマニエリスム建築からサン・ピエトロ大聖堂に結実するイタリア・バロック建築の造形的特徴を、ヴィニョーラ、パラーディオ、ジュリオ・ロマーノ、ベルニーニ、ボルロミーニなどイタリアの個性的な建築家たちの作品を取り上げ、その空間的特質を説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第14週 ： イタリア以外の近世建築 ルネッサンスからバロックにかけて、イギリス、フランス、ドイツ、オーストリアなど北方ヨーロッパの絶対主義王制と結びついて壮大に建設された、それぞれの建築の造形的特徴について、イタリアと比較しながら説明します。	配付資料 復習課題（レポート）
第15週 ： 近世建築のまとめ あらかじめ、近世建築についてのレポートを提出してもらいます。その提出されたレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。また、西洋建築全体についてのまとめも行います。	配付資料 復習課題（レポート）
第16週 ： 期末試験 80分、小論形式。 ノート及び講義中に配布した資料は持ち込み可。 自分の学んだこと、感じたこと、考えたことをきちんと自分の言葉で書くことが大切です。	試験問題

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	①西洋の建築に対し関心をもち、特に興味を抱いた建築空間について画像や図を通じてイメージすることができる。
【知識・理解】	②西洋建築の歴史的流れやそれぞれの時代の代表的な建築作品など、西洋建築史についての基本的知識を身につけている。
【技能・表現・コミュニケーション】	③関心をもった西洋建築の歴史様式やそれぞれの時代の建築空間について、各自の興味の視点から説明をすることができる。
【思考・判断・創造】	④「建築」とは人間にとってどのような意味をもつのか（もちうるのか）考えることができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	15点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	25点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	15点	10点	5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	15点	5点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	提出することが最低条件です。その内容については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。 S：よく満たしている。 A：ほぼ満たしている。 B：一応満たしている。 C：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	毎回の講義に出席することが最低条件です。また、3回あるまとめの講義の時や通常の講義において、積極的に優れた内容を発言した者は、記録して加点することがあります。